

なし [幸水] 異常落葉が不時発芽・開花に及ぼす影響

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

1991年9月の台風により幸水、豊水、新興に不時開花現象が見られ、翌年の花芽不足を来し、大きな影響を及ぼした。このため、幸水に於いて夏季～秋季の異常落葉の時期及び程度が不時発芽・開花に及ぼす影響を知り、安定生産対策の資料とする。

研究の成果

1. 9月7日及び10月2日に全摘葉と直立枝のみの摘葉を行ったが、不時発芽、開花したのは、9月7日の全摘葉樹だけであった。
2. 不時発芽は10月1日より始まり、10月19日には終了した。不時発芽は発育枝だけに見られ、短果枝には見られなかった。発育枝の発芽率は28.4%であった。
3. 不時開花は9月25日より動き始め、落葉後24日目の10月1日に開花を始め、10月6日に満開となり、10月12日に終わった。開花期間は約20日間で4月の正常開花と比べて殆ど差は見られなかった。
4. 不時開花率は、腋花芽が99.4%と非常に高く、短果枝花芽は10.7%と低かった。これは、短果枝花芽はすでに自発休眠には入っているためと考えられる。
5. 不時開花した花の資質は、4月の正常花に比べて花重、大きさはやや劣ったが、花弁数、雄しべ数は差が見られなかった。
6. 以上のことにより、幸水に於ける8～9月中旬の異常落葉は、落葉の程度が甚だしい場合、不時発芽、開花が見られ翌年の花芽不足をきたすが、9月下旬以降の落葉では不時開花は見られない。
7. 落葉が早い場合腋花芽、短果枝花芽共不時開花が見られるが、9月上中旬の落葉は短果枝花芽が休眠に入るためか、腋花芽主体の不時開花となる。

普及上の留意点

8～9月の台風等による甚だしい落葉による不時開花を防ぐために、防風対策を完備すると共に、棚の整備や枝梢の誘引結束等を行うことが重要である。

さらに、腋花芽の不時開花が多い場合の花芽確保として短果枝花芽の利用を図る。

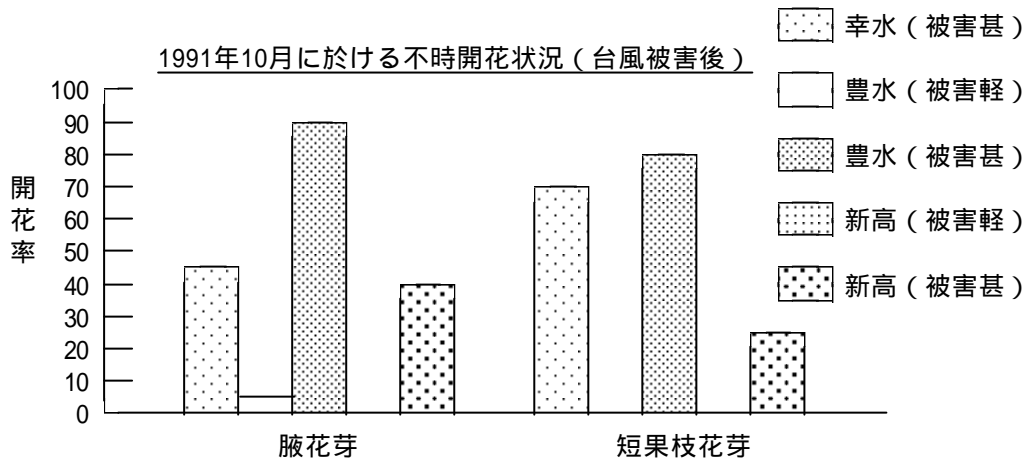
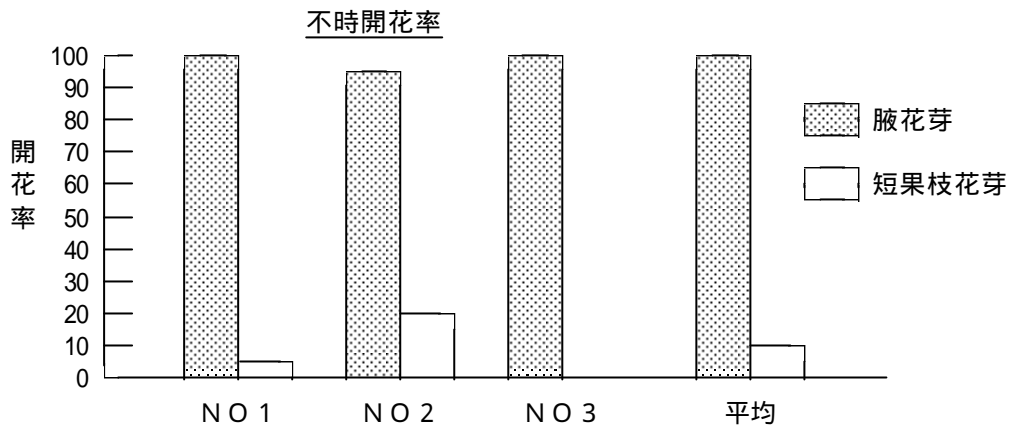


写真 不時開花状況